新年のご挨拶

あけましておめでとうございます。

本年は丑年です。「丑年」は困難を辛抱強く乗り越えて、繁栄を掴み取る年といわれています。

本年はきっとオリンピックも開催され、世界が正常に向かう年となりますことと思います。

皆様にとって幸多き一年となりますことを祈っています。

有松まちづくりの会会長　竹田　嘉兵衛

有松天満社　新年準備進む（12月20日）

参加者が増えてきている天満社で、提灯付けなど新年を迎える準備が行われました。参道階段入口の鳥居では牛未(ごよう)会の皆さんの手で、注連縄(しめなわ)の取り替えが行われていました。

注連縄づくりが行われた12月4日、代表の山口　弘さんに奉納のいきさつをお伺いしました。

「昭和17・18年生まれの私たち73名は厄年に牛未会を結成し、翌年の昭和58年(1983)1月に鳥居を寄進しました。自分たちで作った注連縄を掛けたいと、その年の12月から現在まで欠かすことなく奉納しています。年々高齢で参加者は減ってきていますが、今年も10数名の方が参加してくれました。還暦の年には、中町年行司に猩々と天狗も寄進しました。」

今年は天候に恵まれ、約２時間かけて昨年以上の太い注連縄を作ることができたとのこと。８月に刈った藁をなって３本の縄を作り更にその３本を１本にして注連縄にしていましたが、力を入れないとできません。今年は「コロナに負けるな！」との想いで作ったと話される方もみえました。

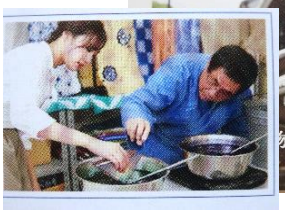
完成した注連縄を持って

お知らせ　**感染防止のため、今年の天満社元旦祭開門は31日22:00に変更です。**

好評　秋の有松

今年も10月1日～11月30日の期間中、「有松きっぷ」を利用して多くの皆さんが有松を訪れて下さいました。コロナ禍の中ありがたいことです。岡家住宅の入館者数も昨年を大きく上回り、11月は2000人程に達しました。

かわら版では、これまでも「天満社秋季大祭」や「晩秋の有松を楽しむ会」などの様子を紹介してきましたが、有松のまちの色々な取り組みを更に紹介いたします。



パンフレットより

日本文化体験

有松東海道日本遺産紹介処(旧山田薬局)は土日に開かれていて（不定期）、時折、日本文化を体験できる催し物を開催しています。その中から２つ紹介したいと思います。

組み紐制作風景

組み紐体験（11月7日）

小林豊子きもの学院の先生を講師にストラップの制作が行われていました。好みの色の紐を選び時間を掛けて組んでいました。「おしゃべりしながらやるのが楽しい」と参加者の声。10数名が参加。

有松写真講座（10月24日）

松坂屋勤務時代アートディレクターとして活躍され、昨年１年間にわたり有松を撮り続けられた岡崎リョウタ氏を講師に行われました。参加者が有松のまちで被写体と格闘している中、丁寧な助言をされていました。事前に自身が撮られた作品を参加者に示し、撮影のポイントを解説されていました。

竹田家住宅で撮影する参加者

鯉活プロジェクト(11月29日)

絞りの鯉のぼりで有松のまちを飾ろうという企画。制作された鯉のぼりは4月下旬から5月上旬に展示されるとのこと。有松ならでは鯉のぼりを作る企画です。中部節句工業組合青年部による節句についての講義を聞いたのち、ミニ鯉のぼりを制作。括った鯉のぼりは藍色に染めたのですが、「愛色」に染まることを願って、参加者もカップルなど二人一組で取り組むようにしてありました。乾燥を待つ間、有松あないびとの会による町並み案内も盛り込まれ、参加された皆さんは、この丸一日の企画に満足されたことでしょう。

会場：有松・鳴海絞会館

節句文化講座

制作体験

染色体験

有松絞りXmasイベント2題

日本遺産認定を記念して、昨年に引き続き今年も有松絞りで飾られたクリスマスツリーが有松のまちに展示されていました。足を止めツリーに見入ったり、写真を撮ったり。

期間　2020年12月5日～25日
場所　イオンタウン有松2階
　　イオンタウン有松外部壁面
　　絞会館等東海道沿い

雪花絞りに挑戦の親子

有松絞りオーナメントづくり（11月22日・23日）

桜花学園の学生有志の皆さんの他、絞会館では一般参加者に右上のような飾りを作っていただきました。合わせて雪花絞りのハンカチもプレゼントされるとの事で、多くの親子連れも参加されていました。

ツリーへの展示作業（12月3日・4日）

できあがったオーナメントはイオンタウン有松の外壁のツリー形ネットやツリーの木に取り付けられました。特に今年は外壁にナイアガラの滝の電飾を加えたので一層輝きを放っていました。もっとも、設置場所が高い所なので作業は大変そうでした。

イオンの外部壁面のツリー

絞会館の入口

外国人観光客向けガイド　勉強会始まる（12月1日）

コロナ禍で有松を訪れる外国人観光客は激減しました。しかし、有松あないびとの会では、将来を見据えて外国人へのおもてなし向上のための研修会を行なっています。第1回講演会の内容を紹介します。講師はいずれも日本在住の女性ツアーガイド。

右がヨピス・エリザベスさん

1　「外国人に響くコンテンツ」ヨピス・エリザベス

「日本を旅する外国人は、日本でしか体験できないものに出会いたい・感じたいと思っています。有松には彼らが求めるものがいっぱいあります。例えば

- 駅からすぐ近くに、浮世絵に描かれたような江戸情緒あふれる町並みがある。
- 有松にしかない絞り染めの商品があり、制作体験をすることもできる。
- 山車まつりでは、山車を見るだけでなく曳くこともできる。

案内する前に、外国人が見たいものや興味を持っているものを確認することが必要です。とても大事なことです。そうすることで、外国人の心に響く案内をすることができます。是非とも心掛けて下さい。

案内の後にはお奨めのショップや食事のお店の紹介もあると良いです。」

（つづく）

絞会館と私　３　きんさん･ぎんさん来館

有松・鳴海絞会館に来館された有名人と言えば、成田きんさんと蟹江ぎんさんの双子長寿姉妹を忘れる事ができません。

平成３年(1991)数えで百歳をお迎えしたお二人は、テレビCMに登場したことをきっかけにお茶の間の人気者になりました。鳴海村に生まれ、農家の傍ら内職として絞りの括り仕事に携わり、結婚後も絞りの夜なべ仕事に励みました。疲れでついウトウト居眠りをして手先が止まると、姑さんが物差しで背中をパチリとしたそうです。

絞会館でのきんさんとぎんさん

平成10年(1998)11月26日に絞会館を訪れ、若い頃の思い出を語るとともに括り仕事を実演して皆を驚かせました。その折り、有松より絞りのちゃんちゃんこが贈られました。そのお礼にとウコン桜２本を絞会館南に植えられてくださり、春には淡い黄緑色の花がそばの竹田庄九郎碑や鈴木金藏碑を彩っています。

春満開のウコン桜

当時職員だった伊東葉子さんは次のように語ってくださいました。「あの桜はご本人達が植えられたのですよ。その時は物置もなく広々としていました。それと、あのちゃんちゃんこは竹田耕三さんが用意されたのです。ご自身で作られたのを贈られたのです。有松まちづくりの会会長竹田嘉兵衛さんの弟さんですね。絞り作家･研究者でしたが若くして亡くなられました。」

知ってますか？有松のマスコット

”しぼりーちゃん”は12年前に公募に応募した当時有松中3年生の中村明美さんが考え出しました。いつも絞会館1階の階段で笑顔を振りまいています。弟分の"有松くん"も5年前に公募で誕生。大高のイラストレーター此林ミサさんの作品。かわいがってね。

しぼりーちゃん

有松くん

催事･行事の予定

1月14日(木)	07:30	東町秋葉社左義祭　東町秋葉講
〃	09:00	左義長　有松天満社　文嶺講
1月17日(日)	17:00	文嶺講総会　絞会館
1月23日(土)	09:00	文化財防火デー消防訓練　絞会館　緑消防署
1月24日(日)	07:30	かえで道清掃　有松まちづくりの会
1月25日(月)	18:00	有松まちづくりの会役員会　コミセン

発 行 者:竹田嘉兵衛(有松まちづくりの会　会長)
編 集 者:加藤　一成(有松まちづくりの会　広報部員)
T･F 052-623-1676　090-4163-2671　E-mail katoisse@mc.ccnw.ne.jp

有松まちづくりの会は、ホームページを公開してます。 有松のまち 検索

日本遺産企画　**有松祭礼と絞り**　報告その1

山車まつりの中止は残念でしたが、同時期お祭りをより理解できるようにと企画された取り組みがいくつか行われました。その一部を紹介しましょう。

1　伝承される祭り、絞り座談会(10月4日)

今回は、知る機会の少ない楫方のことを話題にさせていただきます。

コメンテーター　後藤年秋:東町元楫長(写真左)
ゲストコメンテーター　鬼頭秀明:名古屋市文化財審議委員(写真右から2人目)
司会　本田雅己:第39代有松天満社元総代長/東町元囃子方

中町交差点での車切り

本田　1時。この時間は中町交差点で車切りが行なわれている。楫方衆の力技が見られないのが残念です。せめてお囃子を聞いて祭り気分に・・楫方から見たお祭りの話をお願いします。

後藤　楫方になったのは、同じ会社の先輩から声を掛けられたから。それから20年近くで楫長になり、60歳まで続けた。楫長になって祭りでのアルコールは一切なしに。楽しい祭りになった。

楫方の衣装は昔は半纏だけだったが、今はピンクや黄色のTシャツもある。3年ごとに取り替えている。三町それぞれ山車の特徴を生かしたものを作っている。同じものはない。

東町の山車は楫棒に乗らないでやっている。片方上げて回すのに重しがあると軽く回せる。つまり東町は楽して回さないということ。昔は肩のできた人に日当を払って来てもらっていた。

松野根橋での車切り

鬼頭　有松のように担ぐのが名古屋型山車の特徴。楫方と天秤棒で輪を浮かせて回す。おそらく力自慢の人足文化が生み出したのかもしれない。昔、東照宮祭の楫方をやると人足賃が上がったと言われた。

後藤　昔、松野根橋では競って何回も回していた。三町のライバル意識がスゴくあった。中町は回すのが好きだった。

鬼頭　それだけ山車への誇りが強かったのでしょう。

後藤　昔は夜、郵便局の前で休憩しており、終わるのが深夜になることもあった。名古屋市と合併した頃から時間通りに進められるようになった。

(文責　伊藤総俊)

《　参考:　楫方の衣装　有松祭礼と絞り展　9月26日～10月4日より　》

棚橋家住宅:山車係半纏2点・楫方半纏3点・楫方Tシャツ9点とワークショップ作品15点が展示

寄稿

有松”天明の大火”について

～下郷学海の日記より～

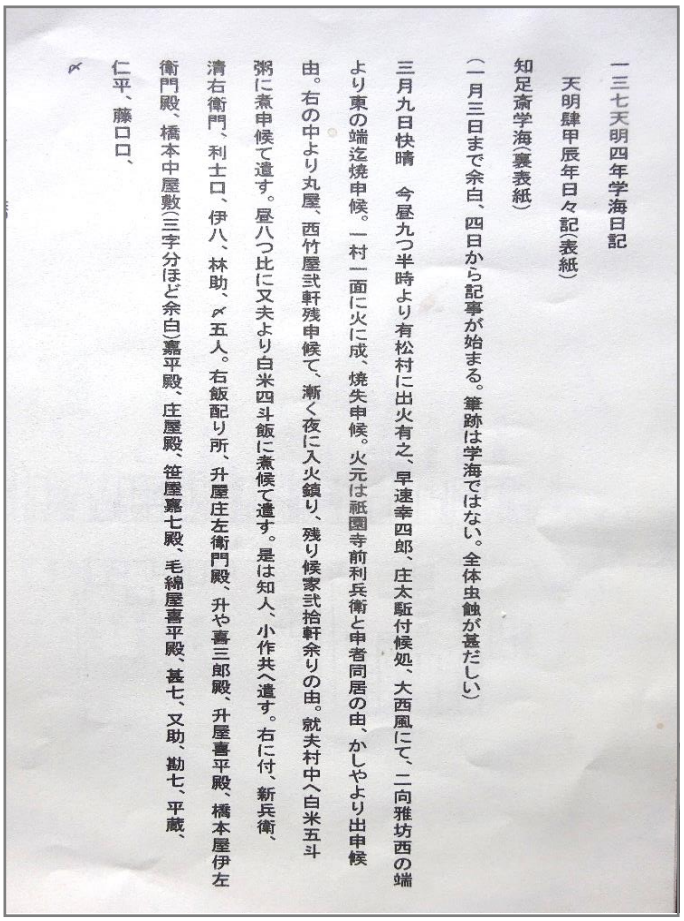
有松あないびとの会　山本　文雄

鳴海の下郷家の当主は、代々日記をつけていて、東京大学名誉教授の森川昭さんがその翻刻をされました。

天明の大火とき、日記をつけていた下郷学海は、寛保２年(1742)分家に生まれ、のち下郷常和の養子となって本家を継ぎ、寛政２年(1790)８月２日死去しました。日記にある天明４年３月９日は西暦1784年で、グレゴリオ暦で４月28日。昼九つ半は今の午後１時頃になると思われます。

駆けつけた幸四郎と庄太は下郷家の番頭か手代でしょうか。火元は祇園寺前の利兵衛、焼けずに残ったのは丸屋（久田丈助）と西竹屋（竹田吉兵衛）。夜に鎮火。残った家は20軒余り、飯を配ってもらったのは

升屋庄左衛門（舛屋　鈴木与左衛門？）
升や喜三郎（山口喜三郎）
升屋喜平（中舛　竹田喜兵衛）
橋本屋伊左衛門（久田伊左衛門）
橋本中屋敷　嘉平
庄屋（竹田庄九郎）
笹屋嘉七（笹加　竹田嘉七郎）
毛綿屋喜平
甚七、又助、勘七、平蔵、仁平、藤□□

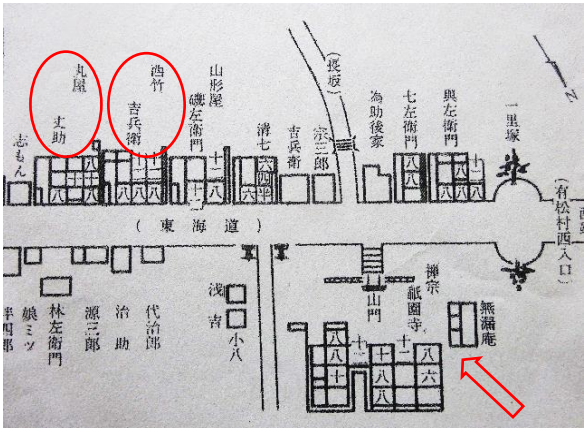

一三七天明四年学海日記
天明肆甲辰年日々記(表紙)
知足斎学海(裏表紙)
(一月三日まで余白、四日から記事が始まる。筆跡は学海ではない。全体虫蝕が甚だしい)
三月九日快晴　今昼九つ半時より有松村に出火有之、早速幸四郎、庄太駈付候処、大西風にて、二向雅坊西の端より東の端迄焼申候。一村一面に火に成、焼失申候。火元は祇園寺前利兵衛と申者同居の由、かしやより出申候由。右の中より丸屋、西竹屋弐軒残申候て、漸く夜に入火鎮り、残り候家弐拾軒余りの由。就夫村中へ白米五斗粥に煮申候て遣す。昼八つ比に又夫より白米四斗飯に煮候て遣す。是は知人、小作共へ遣す。右に付、新兵衛、清右衛門、利士口、伊八、林助、〆五人。右飯配り所、升屋庄左衛門殿、升や喜三郎殿、升屋喜平殿、橋本屋伊左衛門殿、橋本中屋敷(三字分ほど余白)嘉平殿、庄屋殿、笹屋嘉七殿、毛綿屋喜平殿、甚七、又助、勘七、平蔵、仁平、藤口口、

学海日記：天明の大火記録

東街便覧図略：天明6年の竹田庄九郎家

天明の大火で全村焼失と言われていますが、丸屋と西竹は焼失を免れ、その後建て替えられました。また、焼け残ったとの伝承もある橋本屋伊左衛門は、焼損したものと思われます。

他にも２０軒ほど余りが残ったとありますが、昭和２９年頃に名古屋工業大学の城戸久教授らが調査したときに、東海道の一本南の筋と町の東部に、このとき焼失を免れたと思われる茅葺き屋根の民家を調査しています。



家並調図：幕末の有松家並み　　祇園寺